



新大分スタンダード

新大分スタンダードで
アクティブ・ラーニング!

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

「主体的・対話的で深い学び」を創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- *問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
- *様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

【備考】

- ◆ 平成26年9月に提示しました「新大分スタンダード」を平成28年度第1回学力向上検証会議の協議を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点で整理しました。「新大分スタンダード」自体が変わるものではありません。
- ◆ 「新大分スタンダード」はアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業改善を具体化したものです。
児童生徒の力と意欲を伸ばす授業の創造に向け、「新大分スタンダード」に基づく授業改善をより充実させましょう。
- ◆ なお、今回の整理の中で1点、修正を加えたところがあります。
「2 板書の構造化」については、「板書とノートの一体化」という文言を削除しました。
- ◆ これは、「板書とノートの一体化」を目指すことを否定するものではありません。
まず、ノートと一体化できる板書にすること、児童・生徒に最低限それを求めることに変わりはありません。
けれども、小学校高学年・中学校になれば、大事だと思った友達の発言や思いついたアイデア等を書き留めること、構造化された板書をさらに自分の思考にあわせて再構成する工夫等が求められるようになります。
そのため、「2 板書の構造化」としてしています。

